

畜産、消費者と結ぶ



直売所に精肉店 食育へ絵本も出版

西海市の御厨さん



①子牛と一緒に晴美さん、②出版した絵本、③オンラインショップの二次元コード



ら作業をすることもあり、「子どものうちから命や食の大切さをわかってほしい。特に牛が育ってお肉になるまでを伝えたい」という思いから、絵本「おなかいっぱいのいのち」を出版した。

「普段当たり前前に食べている牛肉も『命』からできたもの。絵本を通じて、少しでも食の大切さやありがたみを感じてほしい」と話す晴美さん。

「今後、消費者の声をもとに、どのようなお肉が好まれるか考えながら生産から販売までがんばりたい。また、新たにアスパラガス栽培の勉強をして循環型農業を実践したい」と今後の抱負を語った。

精肉と絵本はオンラインショップでも購入可能。

西海市で系統の選抜から繁殖、肥育までの一貫経営を行う(株)ミクリヤ畜産の取締役御厨晴美さん(30)。

神奈川県出身の晴美さんは大学時代に夫の隆紀さんと出会い、大学卒業後、長崎県内のJA全農に就職。結婚を機に隆紀さんが経営する畜産業に

足を踏み入れた。すべてが初めての畜産業で慣れないことが多かったものの、今では同社になくはない存在だ。

就農して4年たった2023年には、同市の農産物直売所「ふれあいの里清水」内に精肉やコロッケなどを販売する精肉店「みくりや畜産」をオ

ープンした。晴美さんは「自分たちで作ったお肉を直接消費者に届けたい。また、経営に関わるうえで新しいことに挑戦し続けることが大切」ときっかけを話す。

生産や販売など忙しい毎日を送る晴美さんは、3人の子どもをもつ母親だ。子どもを背負いなが